

令和6年度自主防災組織のリーダー育成のための研修教材等  
テーマ3 「避難所の運営を円滑に進めるには」  
避難所開設・運営の流れと発生する課題（対応）

# 指導用教材を活用した 効果的な研修実施のヒント

宮崎 賢哉

一般社団法人防災教育普及協会 教育事業部長  
社会福祉士

# 防災教育の三観点と行動の関係性

- **知らなければ、行動できない。**  
→最低限の「知識・技能」がなければ行動に至ることがない。
- × **知っていれば、行動できる。**  
→ 「知識・技能」だけでは行動に至らないことも多い（例：備蓄や避難の必要性は知っているが、何もしていない、しようとしらないなど）。



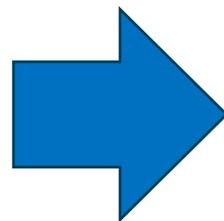
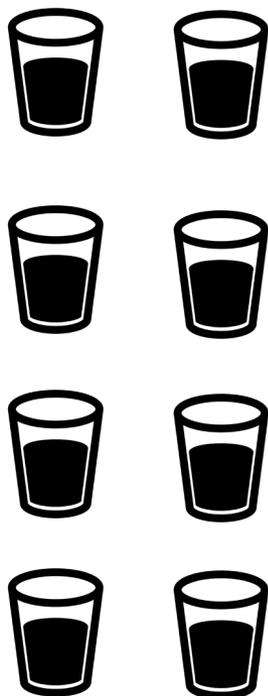
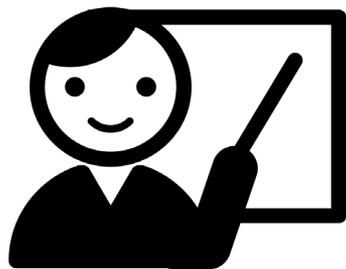
体験・共感・納得、きっかけ等が必要

- ◎ **知っているし、行動もできる（している）。**  
→ 「知識・技能」を活かす方法を理解しており（「思考力・判断力」）、かつ行動に移す意欲（「学びに向かう力」）がある。

# 研修や教育訓練の”ワナ”と対策



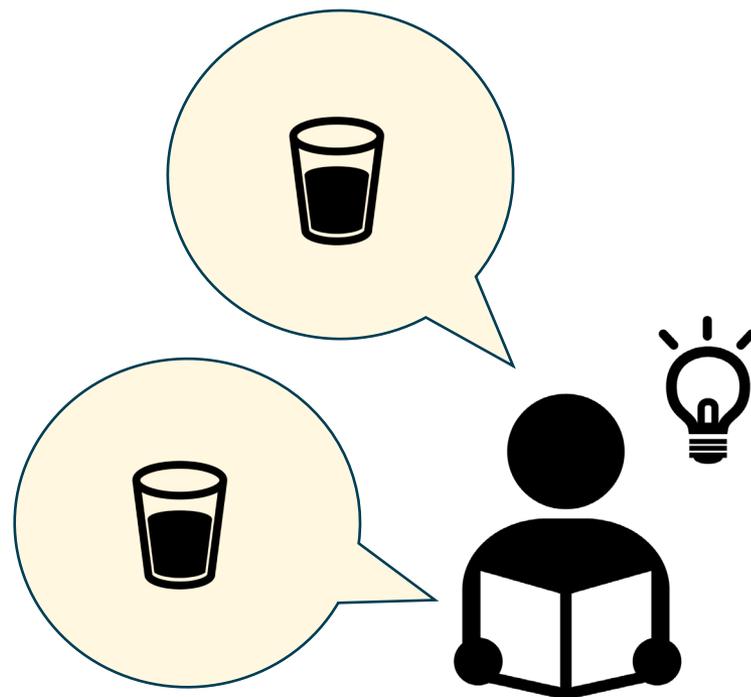
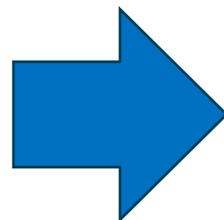
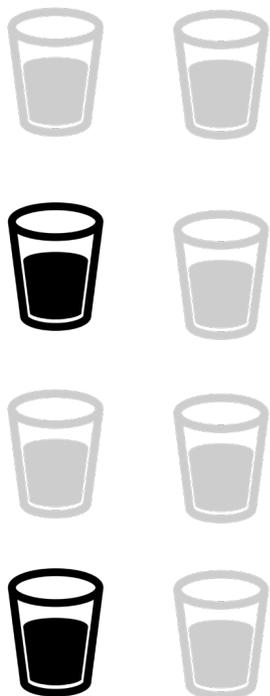
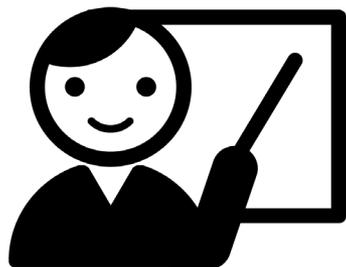
指導者が入れたい「水の量」と  
学習者が受け止められる「水の量」には差がある



# 研修や教育訓練の”ワナ”と対策



参加者の立場や目線、疑問などを意識し  
「入れたい水」をできる限り絞り込む



## 【期待】

自主防災組織のリーダーになりたい、なってほしい方々に「〇〇〇市の避難所開設・運営で皆さんに期待すること」を具体的に伝え、期待が実現されるような研修を実施して欲しい。



## 【知ってほしいこと】

- 実践経験や事例に基づく、既存教材の要点
- 参加者の行動を促すアプローチのコツ・工夫

# 効果的な研修を行うための「質問」

問) 皆さんの自治体では自主防災組織  
リーダーに「避難所開設・運営」で、  
何を期待しますか。

問) 期待することを実際に行動してもらう  
ためには、どんな知識や経験が必要  
だと思いますか。

# 効果的な研修を行うための「質問」

自主防災組織リーダーに避難所開設・運営で期待すること

- 例)
- ・ 開設時にリーダーシップをとれるようになって欲しい
  - ・ 運営時の様々な課題の解決に率先して取り組んで欲しい 等

# 効果的な研修を行うための「質問」

開設時のリーダーシップや運営時の課題解決に取り組むために必要な知識・経験

- 例)
- ・ 避難所開設で、まず**自主防災組織**リーダーにとって欲しい行動。
  - ・ 避難所運営で特に課題となることと、**課題の予防策(事前準備)及び対応策。**
- 等

1. 導入 ～事例と教訓～
2. 既存教材の要点と事例紹介
  - 3 - 1) 避難所の開設・運営
3. 研修で活用可能な関連教材
4. まとめ

1. 導入 ～事例と教訓～
2. 既存教材の要点と事例紹介
  - 3 - 1) 避難所の開設・運営
3. 研修で活用可能な関連教材
4. まとめ

# 避難所運営で率先行動できる人材育成研修の事例と教訓



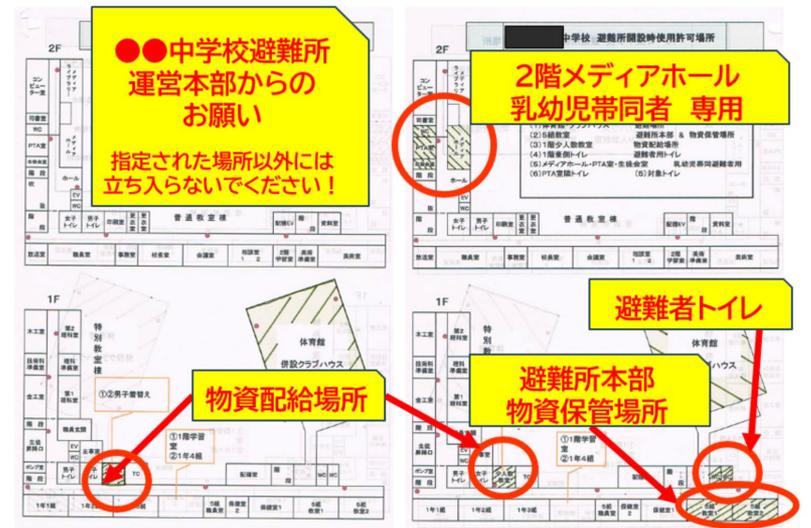
アクティブシニア講座における避難所設営訓練



専門学校と連携したペット防災講座



中高生と住民が参加する防災士養成講座



学校と地域が連携した研修+レイアウト作成

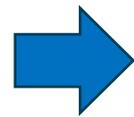
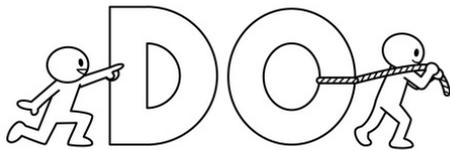
# 避難所開設訓練等の実例を示し、行動の具体化を



避難所（医療救護所）開設・運営における避難者対応や衛生管理



「知っている」だけでは、意見や考えを持つことはできても「行動する」ことができない(難しい)。

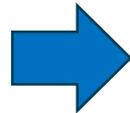


研修で示す、伝える内容について、各自治体（避難所）ではどのように訓練または準備しているのか、あるいは実際に対処したのかを具体的に示す。

# 意欲のある若い世代にも研修の機会を提供

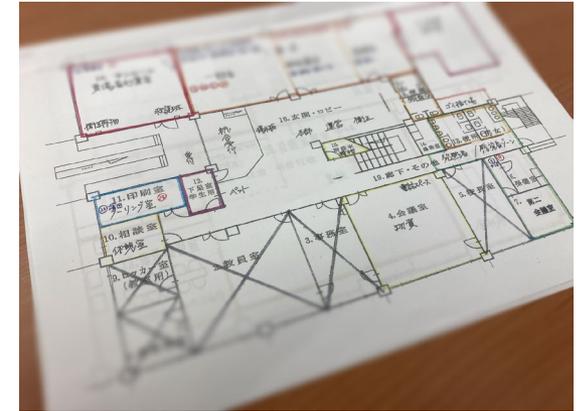
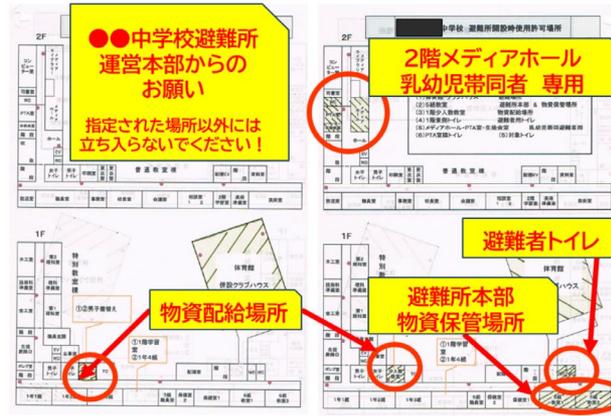
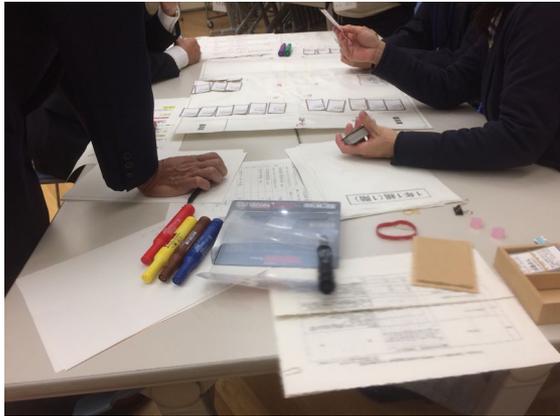


防災士養成講座に中高生が自主的に参加 地域住民と避難所運営を学ぶ（埼玉県行田市）



- 多様な背景を持つ避難者に対応するためには**運営側も「多様性」が必要。**
- **中高生や女性が積極的に研修や訓練等に参加できるような工夫（内容や広報など）をする。**

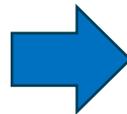
# 市販教材等も活用し、レイアウトや空間配置を検討



図上演習でレイアウトを作成 実働訓練で空間配置や避難者対応を検証



施設や状況によって適切なレイアウトや空間配置は異なるため「テンプレート」だけでは対応が困難

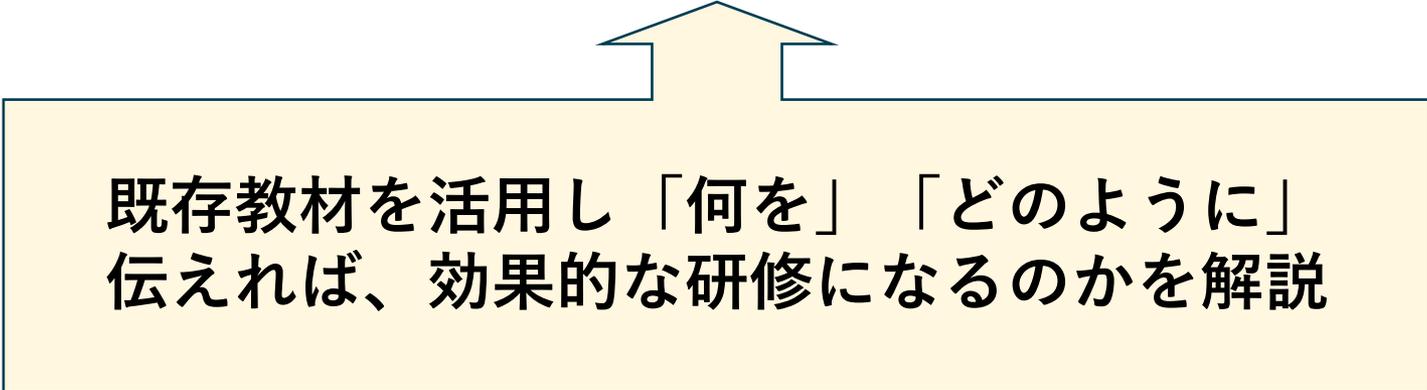


市販の教材や、避難所想定施設の  
図面を用いたレイアウトや空間配置  
を検討する。  
※学校、公民館、指定管理者等、**該当施設の職員も参加していることが望ましい。**

1. 導入 ～研修や教育訓練の”ワナ”～
2. 既存教材の要点と事例紹介
  - 3 - 1) 避難所の開設・運営
3. 研修で活用可能な関連教材
4. まとめ

# 経験則に基づく避難所開設・運営に求められる人材

- ① 「率先行動」ができる(指示待ちにならない)人。
- ② 様々な課題に対し、周囲と助け合いながら対策や対応を行うことができる人。
- ③ 避難所運営に関わるルールを整理し、避難者等に分かりやすく伝えられる人。



既存教材を活用し「何を」「どのように」伝えれば、効果的な研修になるのかを解説

# 資料3-5\_0301 p.5-7の伝えるべき「要点」

## 災害発生前後にとるべき行動(主に自助・共助)



5

## 災害発生前後にとるべき行動(主に自助・共助)



6

## 避難をする場所について

「避難所」と「避難場所」の役割の違いを理解しましょう

### 指定緊急避難場所

「火災が迫っている」、「建物が倒壊しそう」といった状況のとき、**いのちを守るために一時的に避難する安全な場所**のこと

### 指定避難所

大地震の揺れ等で自宅が倒壊・焼失等をしてしまい、**生活する場所がなくなってしまった方が、一定期間の生活を送る施設**のこと

なお、避難者の状況によっては福祉避難所に移送することがある

※福祉避難所  
指定避難所では避難生活が困難な、高齢者や障害者、妊婦など、災害時に保護が必要なたち(要援護者)に配慮した市町村指定の避難施設。福祉避難所は必要に応じて開設される(はじめから福祉避難所が指定避難所として開設されるのではない)。

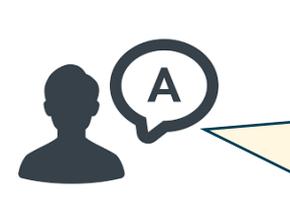
7

★避難所開設・運営の前提には「**避難行動**」がある。

★避難場所、避難所、福祉避難所、在宅避難などの**キーワード**の理解が必要。

# 事例:「避難」が示す行動を整理する

あちこちに避難という言葉が出てきて分かりにくい。自主防災リーダーとしては、何をすればいいのか。

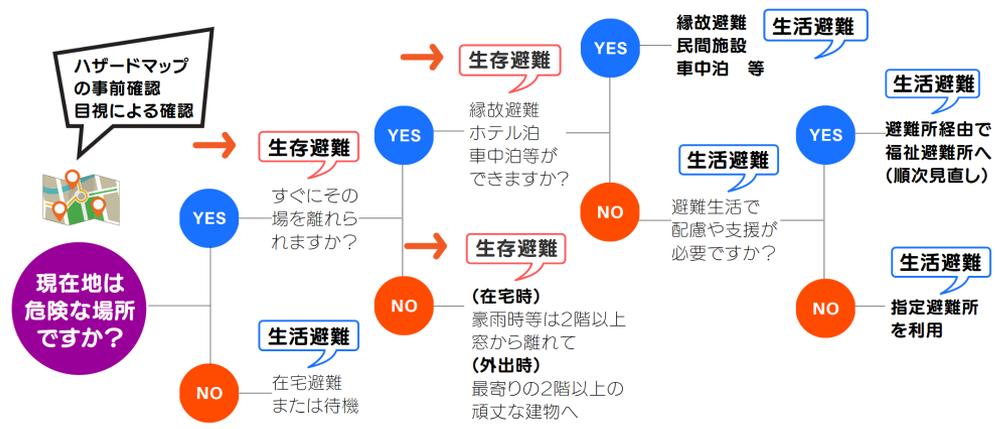


まず「命を守る(避難)行動」を最優先し、安全が確認できたら「暮らしを守る行動」にご協力ください。

## (講師研修資料例)

### 生存避難(Evacuation)と生活避難(Sheltering)

「死なない、生き残る」のための生存避難(→)と、「暮らす、生き抜く」ための生活避難  
→ 地域の正しい災害リスク認識に基づく行動計画や支援計画が重要



- 命を守る「生存避難(行動)」と、トイレ、食事や水、寝場所などの“暮らし”を守る「生活避難(行動)」に分類し、具体的な行動を明示
- 災害時要配慮者支援(資料3-5\_0302)とも関連



避難所の開設・運営は「命を守る行動」の先にある

# 1. 災害時にとるべき行動

## - まとめ -

- 災害時にとるべき行動、避難所と避難場所の役割の違いを理解し、**適切な行動**をとりましょう

よくある質問  
ポイント



# 事例：「自分がその場にいたら」をイメージしてもらおう

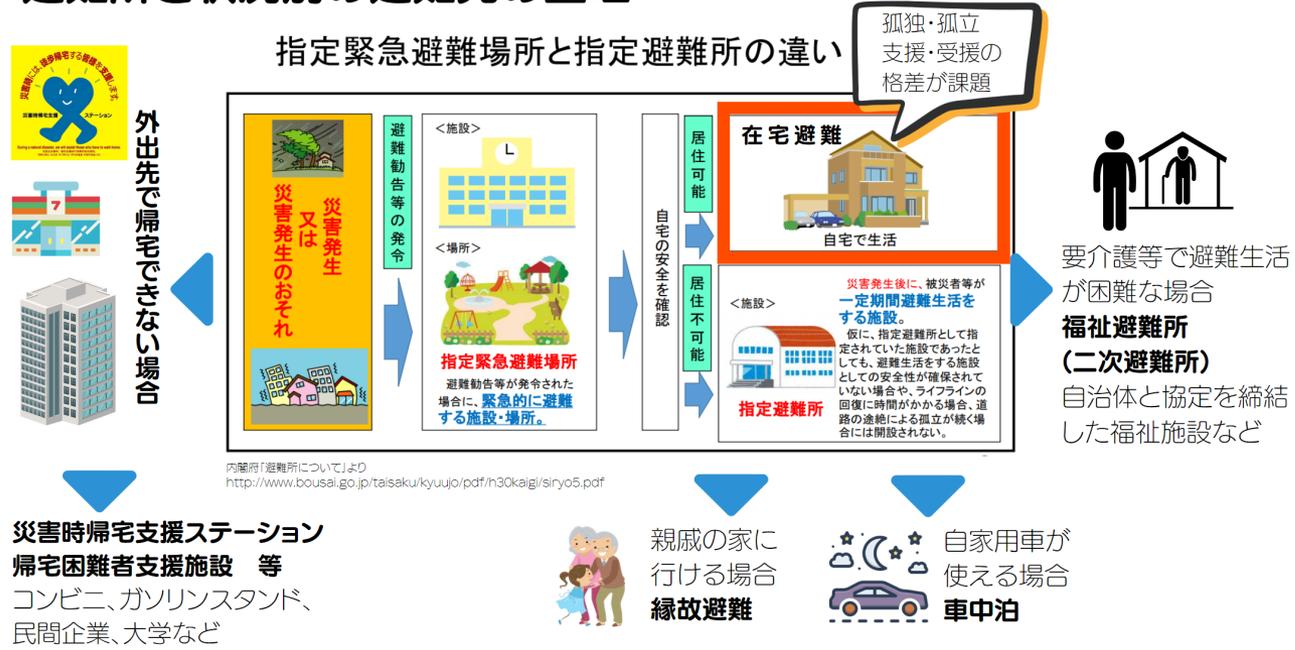
「適切な行動」っていうけどさ、我々は自主防災組織リーダーとして具体的にどこで何をすればいいの？



安全確保や避難誘導、救助・救出協力の後、最寄りの指定避難所等で開設・運営にご協力ください。

## 避難所と状況別の避難先の整理

(講師研修資料 例)



- ・参加者個人が、自分の行動をイメージできるように整理
- ・それぞれの場面での行動を説明



情報を提示するだけでなく「行動」と結びつけていく

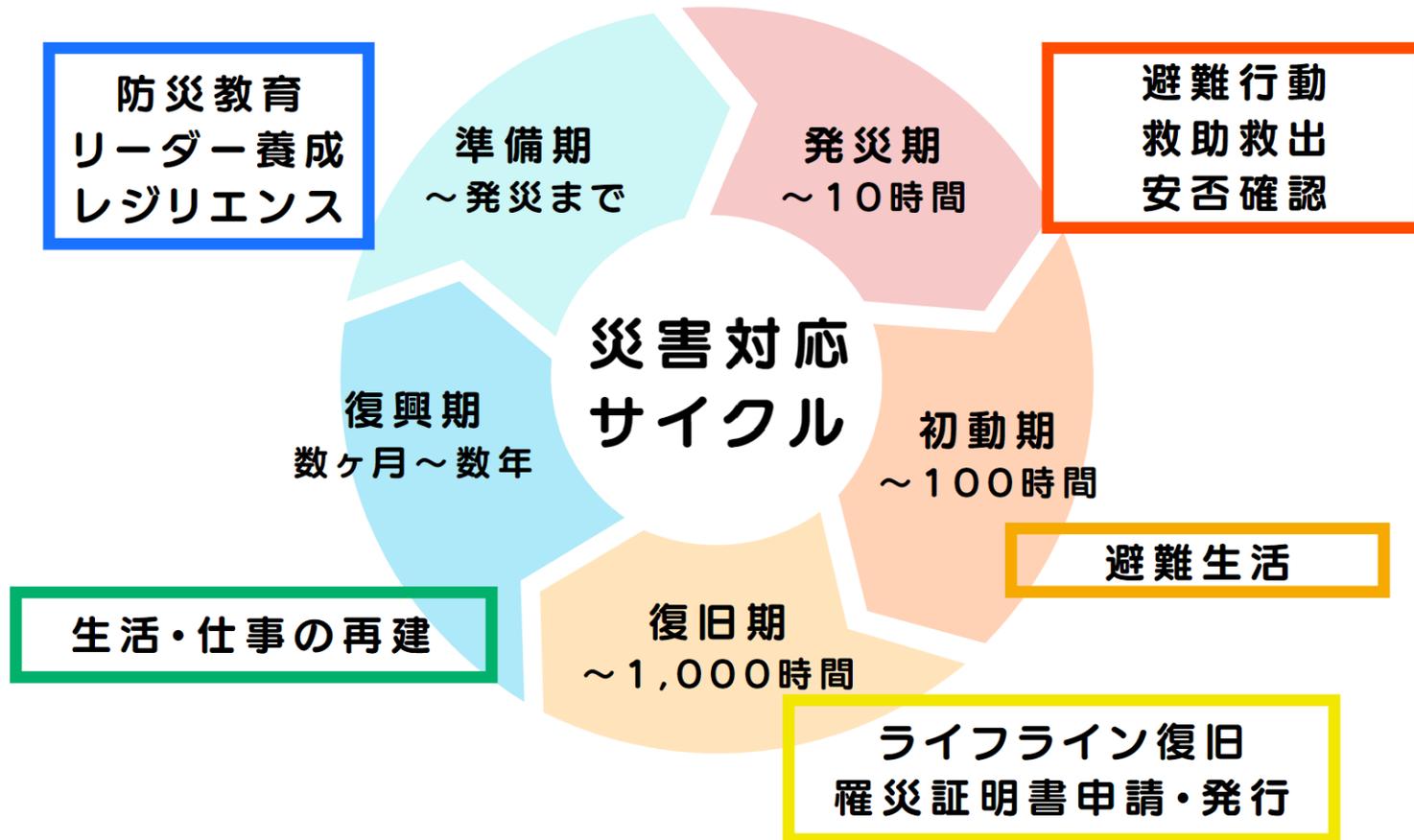
災害時帰宅支援ステーション  
帰宅困難者支援施設 等  
コンビニ、ガソリンスタンド、  
民間企業、大学など

親戚の家に  
行ける場合  
縁故避難

自家用車が  
使える場合  
車中泊



## 避難所の開設・運営の前後にある時系列や 主な対応を図式化





# 資料3-5\_0301 p.10-13の伝えるべき「要点」

## ○避難所運営の担い手

避難所生活の「質の向上」のため、自主防災組織等が中心となり、市区町村と協力して運営を行いましょ

過去の災害では、自治体職員が避難所対応で手一杯になり、他の災害対応業務の実施に支障が生じた

- 自主防災組織等  
避難所運営の中心的役割を担うことが期待されている(各業務の主担当、女性の参画が重要)
- 市区町村からの派遣職員  
災害対策本部との情報収集・伝達ボランティアの調整
- 避難者  
避難所運営への自主的な協力
- 施設管理者  
施設管理・維持



## 避難所の開設・運営の流れ

避難所は、使用可否の判断の後、開設されてから、運営されます

### 避難所としての使用可否の判断

- ① 避難所施設の開設  
【主に行政】(市区町村の開設担)
  - 施設を開設後、施設の安全時
  - 市区町村の災害対策本部と
- ② 施設内外の安全点検
- ③ 避難所の開設決定
- ④ 避難者の受け入れ
  - スペースの確保・避難者の誘導・受け入れ
- ⑤ 避難者の把握
  - 避難者名簿の作成
  - 避難者の状況を把握し、備蓄物資を配布
- ⑥ 備蓄物資の配布
- ⑦ 運営の本格化
  - 運営体制の確立・避難所機能の確保(トイレ・スペース等)
  - 生活ルールの設定・多様な被災者への対応・健康管理・衛生管理など質の向上
  - 在宅避難者への物資・情報等の提供
  - 災害ボランティアを活用した運営



協力  
行政  
自主防災組織等  
避難者

※上記の役割は参考であり、自治体等により異なります。

## ■市の避難所開設の準備

避難所となる施設を開錠した後に、安全点検を行い、使用可能な場合は、避難所として開設を行います。赤字・赤枠箇所(2箇所)について、研修を行う地域の情報に置き換えて下さい。

市区町村職員・施設管理者が開錠の担当者となる  
(中・夜間それぞれの担当が必要)  
)時点で避難者は受け入れず、まずは避難所が使えるかどうか点検する

### 全性の確認

建物の構造被害・内部被害の目視確認を行い、危険箇所は「入禁止」「危険・さわるな」といった掲示や、ロープ・カラーコーンといったものも活用して立入禁止を明示する

### 避難所の例

8周辺(火災、地すべり等)、構造被害(傾斜、柱や床、壁等)、内部被害(大井・窓ガラス・散乱物等)

## 開設の準備

リストを用いて自主防災組織等で安全訓練に取り組んでいる地域もあります  
全確認のチェックリストや項目が決まっている報に置き換えて下さい。

項目	確認内容	確認状況
1. 避難所施設	避難所施設(建物)の構造被害の有無を確認する	<input type="checkbox"/>
2. 避難所施設	避難所施設(建物)の内部被害の有無を確認する	<input type="checkbox"/>
3. 避難所施設	避難所施設(建物)の周辺環境を確認する	<input type="checkbox"/>
4. 避難所施設	避難所施設(建物)の周辺環境を確認する	<input type="checkbox"/>
5. 避難所施設	避難所施設(建物)の周辺環境を確認する	<input type="checkbox"/>
6. ライフラインの確認	電気の復旧状況を確認する	<input type="checkbox"/>
	水道の復旧状況を確認する	<input type="checkbox"/>
	ガス供給状況を確認する	<input type="checkbox"/>
	公共交通機関の復旧状況を確認する	<input type="checkbox"/>
7. 避難所施設	避難所施設(建物)の周辺環境を確認する	<input type="checkbox"/>
8. 避難所施設	避難所施設(建物)の周辺環境を確認する	<input type="checkbox"/>

★避難所運営の担い手として自主防災組織（リーダー）の協力が必要。

★開設要否は市区町村が判断してからが原則。

ただし避難者（自主防災組織リーダー）のほうが先に避難所に来ることも想定される。

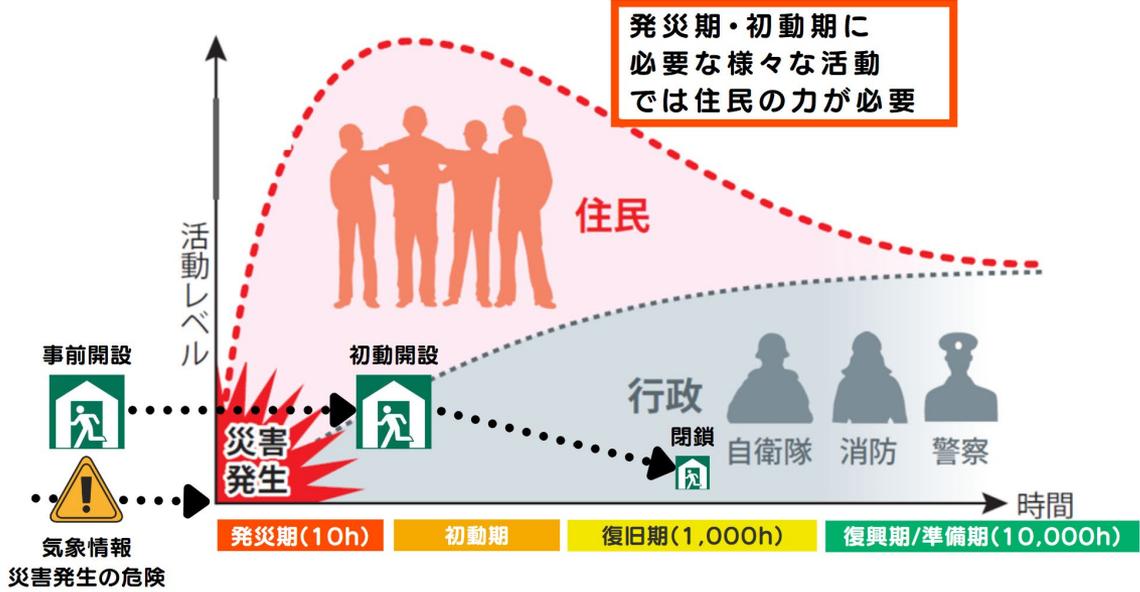
★避難所の開設前には「安全点検」が必要。

# 事例：原則と実態とのすり合わせをする

地震の場合は、行政の判断より先に避難者が来るはず。行政の連絡を待ってからでないといけないのか。



避難スペースの安全が確認できるまでは、施設職員の指示に従い、待機や誘導にご協力をお願いします。



(講師研修資料例)

- ・ 初動期は行政機能の低下が想定されることも説明。
- ・ そのうえで自主防災組織リーダー（住民）に協力してもらうためには、実態に合わせた行動の提示が必要。



参加者から指摘や質問が想定される内容は、返答を明確にしておく。

# 事例：施設の安全点検のポイントを知ってもらう



避難所指定公民館における研修で安全点検のポイントを確認（東京都杉並区）

【防災】知って安心！震災救援所の安全点検（杉並建設防災協議会）

知って安心！  
震災救援所の  
安全点検

一般社団法人  
杉並建設防災協議会

見る YouTube

「安全点検」をどのようにするかを具体的なポイントを例示しながら説明

→避難所開設・運営訓練などで安全点検を行っている様子を写真や動画で紹介する 等

杉並建設防災協議会の安全点検紹介動画作成に協力

# 資料3-5\_0301 p.14-18の伝えるべき「要点」

## 大規模災害時の避難所状況



ワークショップ

避難所では、大勢の方々が過ごすことや被災状況により、様々なことが起こります。避難所で起こる困りごとをイメージしてみましょう。

## こんなとき、どうする？

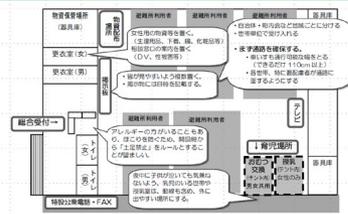
あなたが運営者の立場だったら、どうするか考えてみましょう！  
【問い】1分  
・避難者の中の、赤ちゃんのお母さん達から、「授乳やオムツを替えたいが、他の人に見えない場所を使わせてくれないか？」と相談されました。あなたはどのように対応しますか？



- 1. 体育館の一部にスペースを作る
- 2. 小さな部屋を使ってもらう
- 3. その他

## 避難所の空間の確保

避難所利用者が生活する場所には、様々な空間が必要になります



15

- ★地域住民の暮らし方、被害の状況は多様である。(世代、性別、ペット、障がい、全半壊等)
- ★安心して避難所に留まるためには「空間の確保」が必要である。
- ★関係者で話し合いながら対応することが重要。

# 事例：図面を使った具体的なシミュレーションを導入

場所を決めるのが大切なのは分かるが、学校の教室等を勝手に使ってよいのか。トラブルにならないか。



学校等の避難所運営訓練や協議会に参加し、配置について事前の話し合いをリードしてください。



(講師研修資料例)

- ・学校等の図面を提示
- ・可能であれば学校の教職員、管理職等も一緒に検討
- ・想定される課題についての配置について話し合い



学校や公民館等と連携が不可欠であることを研修を通して伝える

# 資料3-5\_0301 p. 19-22の伝えるべき「要点」

**こんなとき、どうする？**

あなたが運営者の立場だったら、どうするか考えてみましょう！

【問い】1分

- 避難所には、耳や目が不自由な方など、様々な方がこられる可能性があります。そのような方には支援が必要ですが、外見だけでは分からないことも多く、どのようなことに困るのかも様々です。どのように把握したいでしょうか？

A. 一人ずつ聞く  
B. 自己申告してもらう  
C. その他

**こんなとき、どうする？**

【討】5分

自分ならどうするか、それはなぜか？  
方法は、ないか、について意見を交換し

話し合い

**避難者名簿の作成**

避難生活開始後、世帯ごとに詳細な名簿を作成しましょう

**避難者名簿の活用**

- どのような人が避難しているか把握し、避難者の特性に応じた支援を実施するために活用
- 避難者の人数や状況を把握して、物資等(水・食料・生活必需品等)を配布する
- 避難者の職能や特技等を把握して、避難所運営に積極的に協力してもらう人を確保する

め細やかな支援を実現するため、名簿にはできるだけ細かく記載してもらい(氏名、生年月日、性別、住所、支援の必要性の有無等)健康状態、保育・介護の要否など、職能・特技など) 個人情報のため、情報管理を徹底する

**項目例**

活用を踏まえ、あらかじめ避難名簿のきましよう

**避難者名簿の項目例**

	自宅の被害状況
	特に配慮が必要なこと
年齢(世帯主、家族)	運営に協力できること(特技・免許等)
性別(世帯主、家族)	安否確認への対応(公開・非公開)
住所	自家用車の駐車の有無(自家用車の情報)
電話番号	ペットの状況(同伴希望等)

- ★「避難者の多様性」をその場で把握するためには **受付時の情報収集**が必要。
- ★効果的、効率的な情報の集約のために「**避難者名簿**」を活用する。
- ★受付時に把握した課題については、**具体的な対応**がその場で求められる。

# 事例：指定の書式を使った受け入れ演習

生きるか死ぬかで逃げてきて、名簿なんて書いてもらえるのか。名簿の準備や管理は誰が行うのか。



〇〇市の書式を地域の方々や学校関係者と共有し、いざという時の対応を日頃から話し合ってください。



避難者把握リスト事例

避難者把握リスト		月		日現在	
居住場所		リーダー名			
年齢層	人数	ミルク	倍	アレムギー	倍
乳児（0～1歳）		アレムギー対応ミルク	倍	おむつ	子ども
幼児（2歳～未就学児）		全席	人	おもちゃ	人
小学生		高齢・障がい	で介護が必要	人	早めの受診が必要
中学生		備考	（その他アレムギーのある食べ物や、病状など）		
高校生・未成年					
男性（20～64歳）					
女性（20～64歳）					
男性（65歳以上）					
女性（65歳以上）					

体育館や学校のマップをつくり、どこに何がありどんな人が避難しているか、ひと目でわかるようにする

「避難者情報カード」等をつかって、効率的に避難している人の情報を把握して、災害対策本部等にいち早く報告する



## （講師研修資料例）

- 各市区町村の所定の様式を用意して、実際に記入してもらう。
- 前述の空間配置と連動させ、受付名簿に応じた誘導や物資管理導線をイメージ。



研修で避難者カードや名簿の様式に積極的に触れてもらう

# 資料3-5\_0301 p. 23-26の伝えるべき「要点」

**こんなとき、どうする？**

あなたが運営者の立場だったら、どうするか考えてみましょう！

【問い】1分

- 災害の規模が大きく、避難所での生活が長引きそうです。夜の消灯時間を22時としていましたが、幼稚園のお子さんのお母さんたちから、「子どもが21時頃眠たくなるが、明るくて寝れないので、何とかならないか？」と相談されました。どのように対応しますか？

A. 消灯時間を21時にする  
B. 我慢してもらおう  
C. その他

**こんなとき、どうする？**

【問い】5分

自分ならどうするか、それはなぜか方法を話し合おう。自分と他人の考えを交換して話し合い

**避難生活上のルールを設定と周知**

知らない方と共同生活を送るためには、ルールを設けて共通認識を持つことが大切です

- 避難所生活に必要なルール(例)**
- **避難所全体共通のルール記載項目(例)**  
避難所の運営主体/避難者名簿登録/土足の可否/部屋の使用
  - **共同生活上のルール(例)**  
生活時間(起床・消灯・食事・放送等)/清掃/洗濯/ごみ処理/プ
  - **その他必要とされるルール(例)**  
トイレの使用(使用時・清掃時)/火気使用/夜間の警備体制につい

**避難所生活上の課題の発生**

避難所は様々な人達との集団生活のため、色々な課題が発生し、その対応が必要となります

- 共通の課題**
- ・ **生活空間に制限**が生じる  
プライバシーの確保が難しい、ライフライン(トイレ/浴室など)が使えないなど
  - ・ **衛生環境が著しく悪化する**  
トイレ環境の悪化、清掃が行き届かないなど
  - ・ **健康問題**が生じる  
エコノミアス症候群、生活不活発病、感染症など
  - ・ **個別対応に限界**がある  
配慮が必要な方への対応、ペットへの対応など
  - ・ **女性・くらし目線の配慮**が行き届かない  
女性特有に配慮すべきことへの対応、性別固定役割、DV被害など

日頃から課題への対応を考えておきましょう。地域の状況を踏まえて、必要な取り決めを作るなどの取組みを進めましょう。

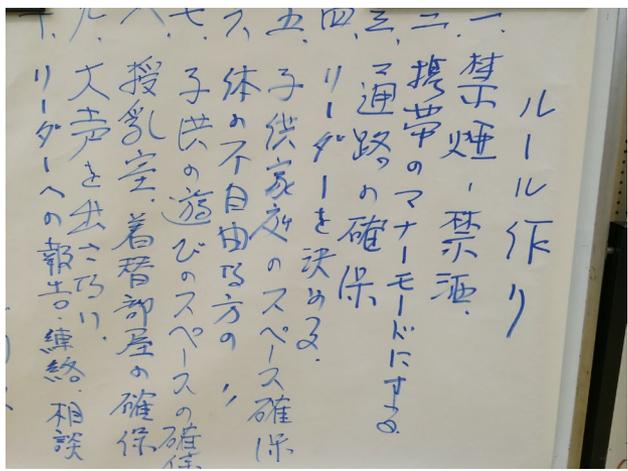
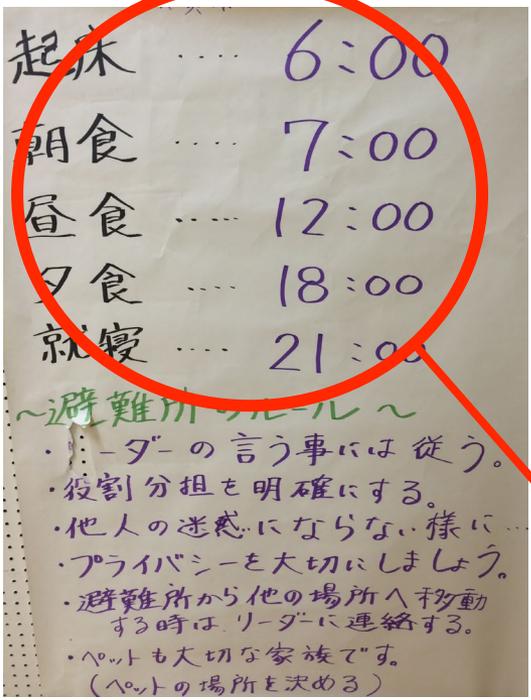
- ★不特定多数の人が共同生活をするため、最低限のルールがなければトラブルが起きやすい。
- ★ルールには「避難所全体共通ルール」と「共同生活上のルール」の2種類がある。
- ★事前にルールや対応を決めておくことが望ましい。

# 事例：私たちの避難所ルールを考えてみよう

ルールが必要なのは分かったけど、それは行政が予め決めておき、守らせるべきものじゃないのか。



市のマニュアル等でのルールは最低限なので、現場の状況に応じたルール作りにもご協力ください。



(講師研修資料例)

- ・まず知ってもらえるルールを10個程度にまとめてみる。
- ・なるべく具体的で、多くの人に理解してもらいやすい内容を整理してみる。



場所や配置の指定などは「施設ルール」  
生活時間などは柔軟に変える「生活ルール」

施設ルールと生活ルールが混じってしまいやすいので、適宜フォローする

## 在宅避難の実態と課題

指定避難所に避難している方以外にも、様々な理由で在宅避難している避難者もいます

### 避難の実態（熊本地震）

- 様々な理由で指定避難所に来られない被災者が多くいた
- 地元福祉団体（地域包括支援センターなど）、応援保健師、民間団体と共同し、在宅避難者の把握に努めた事で、支援につながった

### 在宅避難などの課題（熊本地震）

- 余震も多く、風雨にさらされた損壊家屋に居住を続け非状況の方もいた
- 被災者の自発的行動がない場合、適切な支援及び把握困難だった



## 所以外の避難者への対応（在宅避難者など）

所の物資・情報・人的支援は、避難所生活者と所以外の生活者に等しく配分する必要があります

### の基本

避難所への届け出の呼びかけや状況の聞き取りにより避難所以外避難者の状況を把握する

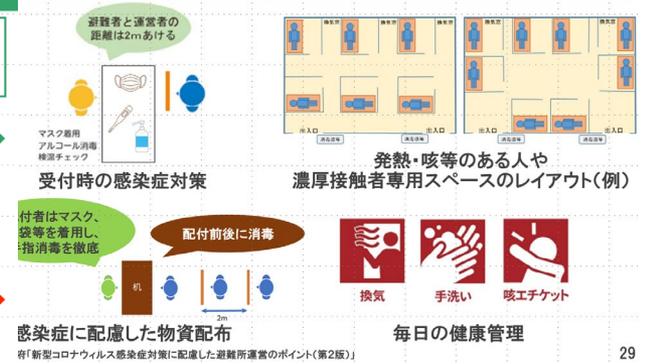
避難所へ物資・情報などを受け取りに来てもらおう



へ向かうのが難しい方に対しては、配達などを検討する  
ラス症候群などによる災害関連死の予防啓発を行う  
の避難者への支援に関する理解を浸透させる

## 感染症対策に配慮した避難所運営

3つの密（密閉・密集・密接）を避ける対応が必要です



★「在宅避難」、「車中避難(泊)」など避難所外でも支援を必要とする被災者がいる。

★被災者への支援は原則として「平等」であるべきだが、一定のルールのもと「公平」な支援も必要。

★感染症対策は前述の空間配置やルールの中で想定しておく。

# 事例：平等なルールと公平なルールの違いを伝える

在宅の人と家が全壊の人、病気や障がいがある人、みんな同じ支援では困る場合もあるのではないか。



被災された方の特性や状況に応じて、ルールを設けたうえでの個別支援も必要となります。

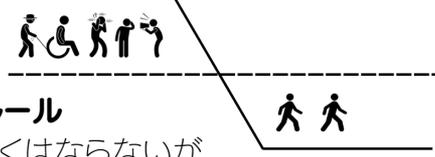
## 避難所における「平等なルール」と「公平なルール」のちがい

+-0



**「平等」なルール**  
その場にいる全員に等しく対応。  
個人の特性・特徴は考慮しない。  
(例：球技のルールなど)

+1



**「公平」なルール**  
全員が等しくはならないが、条件(ルール)の中では等しく対応する(例：所得税など)。



-1

👉 **ルールを理解(納得)してもらうには「個人利益(負担)」ではないことを明確にする**

被災してからのルールづくりは限界があるため、  
事前のルールづくり、啓発、リーダーシップ、働きかけ等が必要

## (講師研修資料例)

- ・おなじ「ルール」でも平等か公平かで扱いが異なる。
- ・要配慮者等へ個別支援を行うことは、生活上の課題に対する「公平」な支援。



**トラブルを避けるために行政としての判断と現場の対応を整理しておく。**

## 新型コロナウイルス 避難生活お役立ち サポートブック

2021年5月26日発行(第4版)  
今後最新情報に基づき、随時更新予定

認定 NPO 法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク (JVOAD)  
避難生活改善に関する専門委員会  
(主管: 認定 NPO 法人レスキューストックヤード (RSY))

### 01 アルコールの種類、濃度の違い。いつ、どこに、どれを使えばいいの?!

ひとくちにアルコール消毒液といっても、状態や成分はさまざまです。種類も豊富で、どれを選ぶべきかとても迷いました。旧多良木高等学校避難所では、主に次亜塩素酸ナトリウムや70%程度のアルコール消毒を使用していましたが、支援物資の中には多種多様な消毒液がありました。使い方を間違えると、十分な効果が得られないことがあるので、きちんと用途と場面に応じて使い分けることが重要でした。

当初、調理室や食卓テーブルは次亜塩素酸ナトリウムで消毒していましたが、プールの消毒薬(塩素)のような刺激臭があり、一部の人に食欲の低下や気分が悪化が見られました。そこで、食事環境周りには70%以上のアルコール消毒の使用に変更しました。効果は重要ですが、生活場とのバランスを考慮することも大切です。

また、アルコール濃度が90%以上だと手荒れの原因になりました。液状タイプは速乾性があり、使用頻度が高いアルコール消毒でしたが、やはり使いすぎると肌荒れを起こす人がいました。ハンドクリームを併用したり、保湿性の高いジェルタイプを選ぶように工夫しました。

※消毒液の種類と用途については、「資料集」のP26、資料③に詳しく掲載しています。



▶ 運営スタッフは、常にアルコールジェルとビニール袋を携帯



▶ 物資で届く様々な種類の消毒液。名称や濃度の記載がないものも多く、調べるのも一苦労



▶ 補充タイプのアルコール消毒液の場合、補充した日付と位置を記入

### 02 受付の待機時間と密回避の工夫

コロナ禍では、感染経路の早期発見に役立てるための検温と、毎回の「出入り記録」が必要でした。ここで課題になったのは、通学や通勤の時間帯には、受付周辺が密になりやすいということです。「居住スペース、名前、外出時間、帰所時間、用件、体温等」のチェック項目をリスト化し、短時間で記入できるよう簡素化しました。一人ひとりの記入時間の短縮が密の回避につながりました。また、受付に限らず配膳時の検温にも置き型の非接触体温計を導入することで、運営側の人手不足解消にもつながりました。



▶ 受付に使用した出入り記録表。詳細は見えないよう保護ファイルなどで工夫



▶ 配膳前の検温には、置き型の非接触体温計を活用

全国災害ボランティア支援団体ネットワーク (JVOAD)  
[https://jvoad.jp/wp-content/uploads/2021/08/2021\\_covid19\\_supportbookver4.pdf](https://jvoad.jp/wp-content/uploads/2021/08/2021_covid19_supportbookver4.pdf)

## 2. 避難所の開設・運営 - まとめ -

- 避難所運営の中心的役割を担うために、安全確認や**ルールの設定等の必要性**を理解しましょう

## まとめ

- 災害時にとるべき行動、避難所と避難場所の役割の違いを理解し、適切な行動をとりましょう
- 避難所運営の中心的役割を担うために、安全確認やルールの設定等の必要性を理解しましょう

1. 導入 ～研修や教育訓練の”ワナ”～
2. 既存教材の要点と事例紹介
  - 3-1) 避難所の開設・運営
- 3. 研修で活用可能な関連教材**
4. まとめ

# 3. 研修等で活用可能な関連教材

## 学校避難所の開設・運営を学べるゲーム



### 『避難所運営ゲーム(HUG)』

製作： 静岡県

対象： 中学生以上を推奨

教科： 不問

時間： 60分～推奨

費用： 12,100円(税込) / 式

資材： カード、図面、マニュアル 等

備考： 静岡県作業所連合会・わ

ホームページから購入できます。

※発送まで時間がかかる場合があります。



静岡県作業所連合会・わ

<https://swa-shizuoka.or.jp/4891>

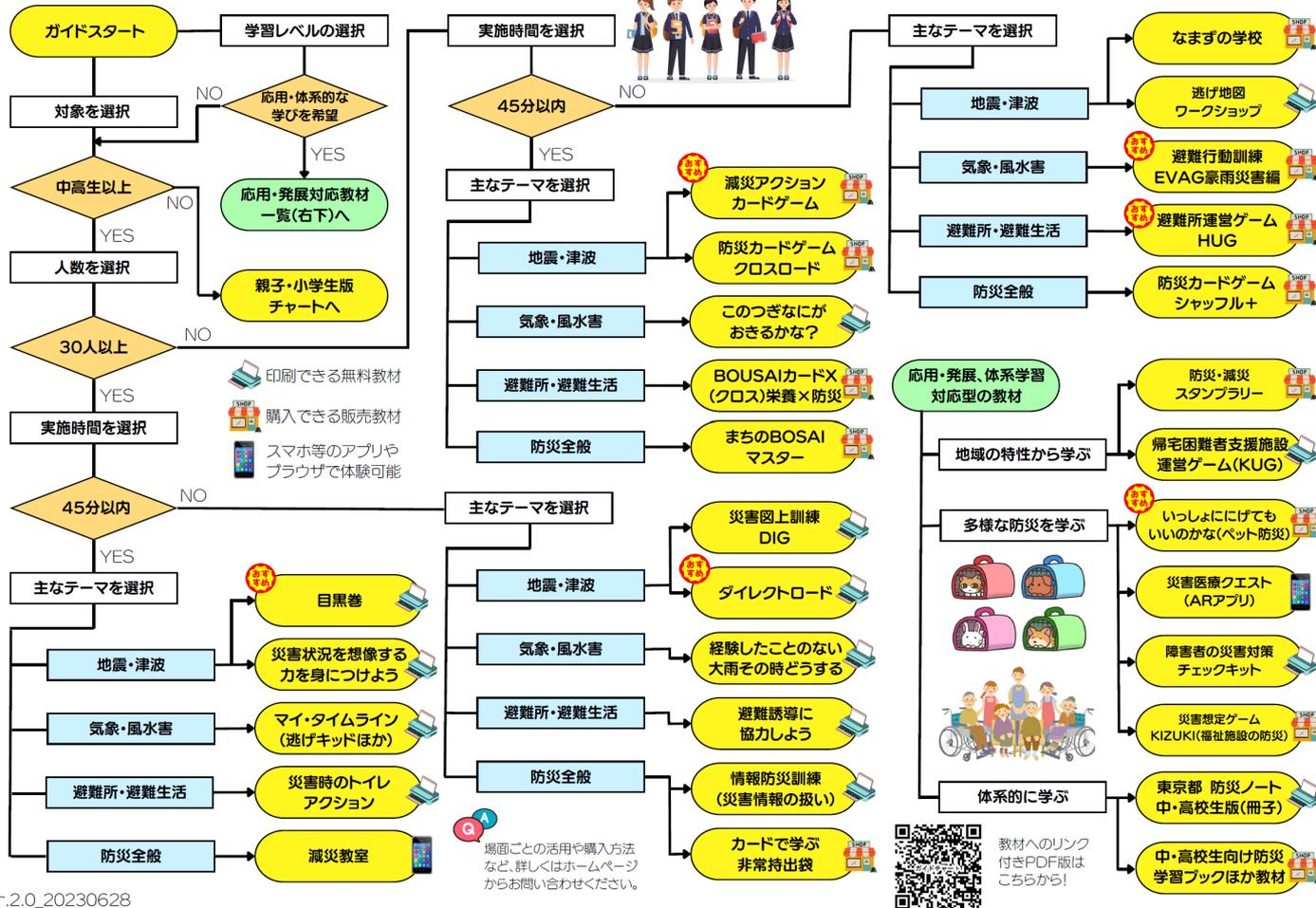
# 3. 研修等で活用可能な関連教材

## 防災教材活用ガイドチャート(中学生・一般版)

※裏面が「親子・小学生版」です。



作成: 宮崎賢哉(一般社団法人防災教育普及協会 教育事業部長・社会福祉士)  
 本チャートは作者の実践経験に基づき整理したものです。  
 電子版は【防災教育普及協会 ガイドチャート】で検索またはQRコードから



1er.2.0\_20230628

## 防災教材活用ガイドチャート (防災教育普及協会)

<https://www.bousai-edu.jp/info/download/bousaikyouzaiguide/>

1. 導入 ～研修や教育訓練の”ワナ”～
2. 既存教材の要点と事例紹介
  - 3 - 1) 避難所の開設・運営
3. 研修で活用可能な関連教材
4. まとめ

- 研修参加者に伝えたいことを絞り込む。
- 主催者（自治体）として、参加者に避難所開設・運営で何をして欲しいのか具体的に示す。
- 参加者から想定される疑問や意見には、予め自治体としての見解をまとめておく。
- 既存マニュアルや書式、市販の教材等の素材、訓練の機会を最大限活用する。